

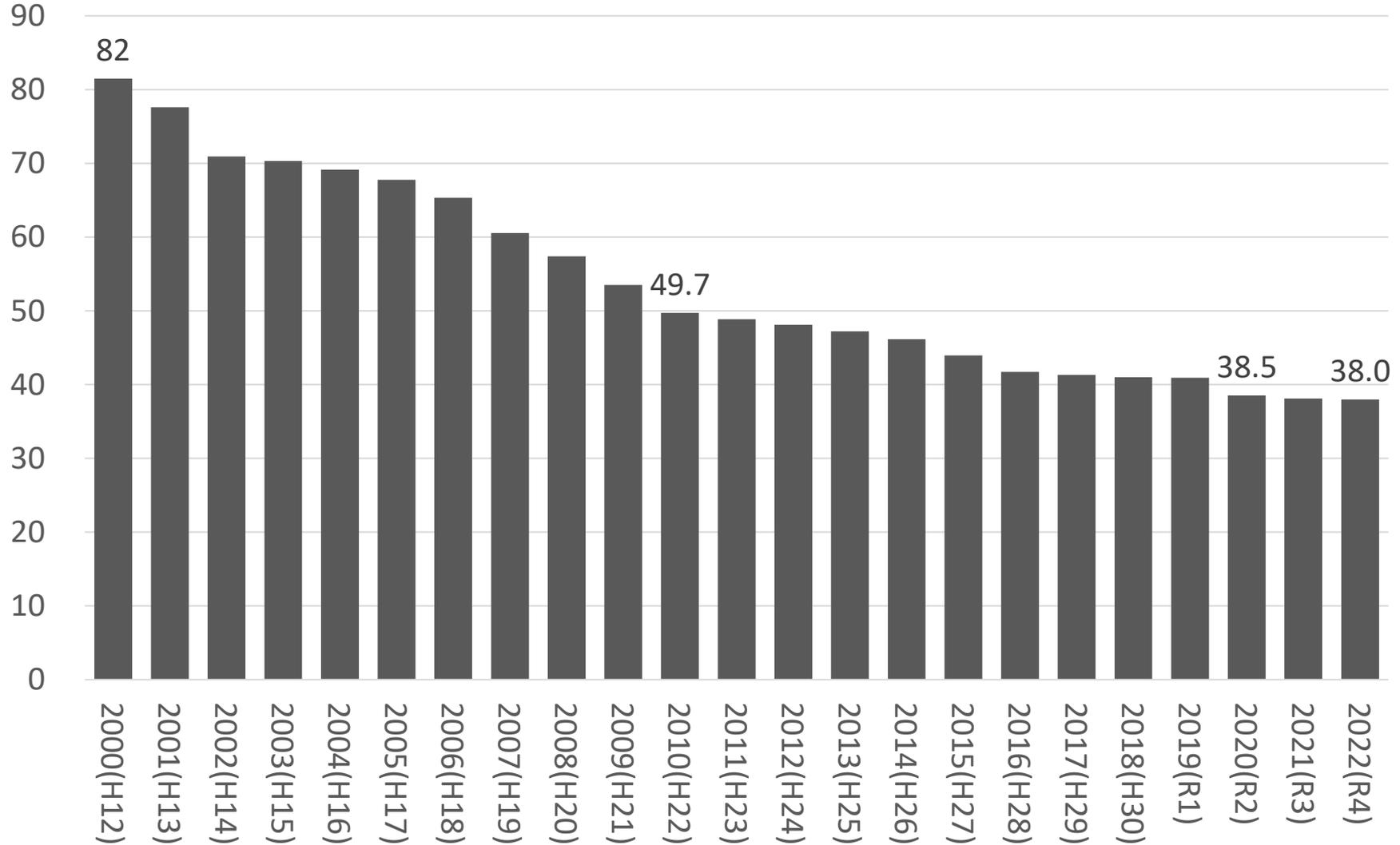
ごみ量・ごみ処理経費 の最新値について

- 1 市受入量（令和4年度）
 - 1-1 ごみ量（市受入量）
 - 1-2 家庭ごみ量
 - 1-3 事業ごみ量
 - 1-4（参考）経済動向
- 2 ごみ処理量（令和4年度）
 - ごみ焼却量・最終処分量
- 3 ごみ処理経費（令和3年度）
 - 3-1 総額
 - 3-2 手数料算定基礎額

1-1 ごみ量(市受入量)①

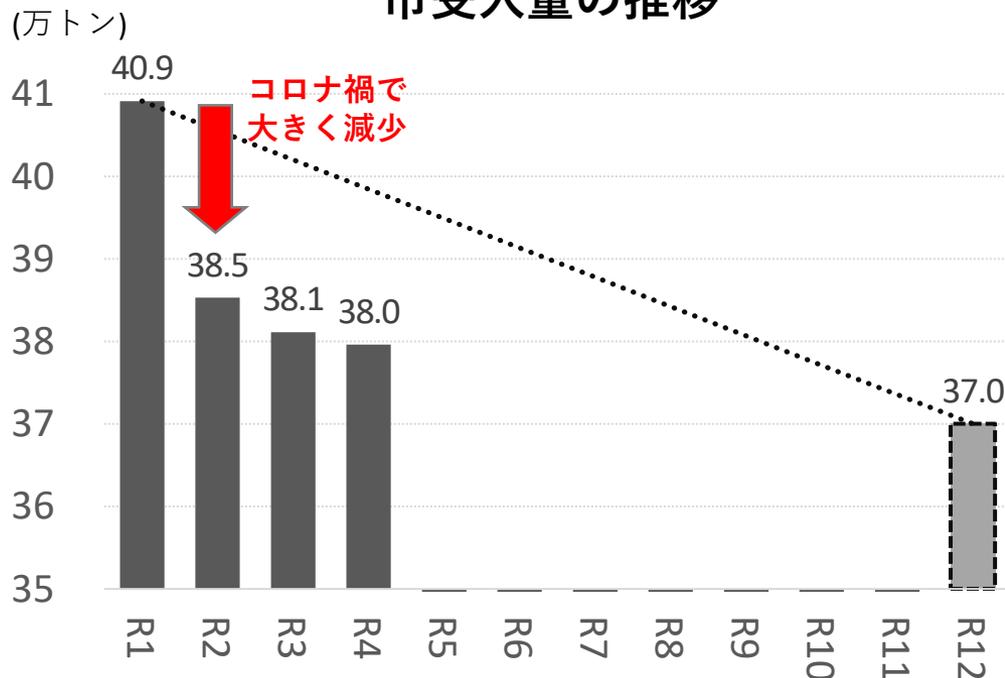
市受入量のピーク時からの推移

(万トン)



1-1 ごみ量(市受入量)②

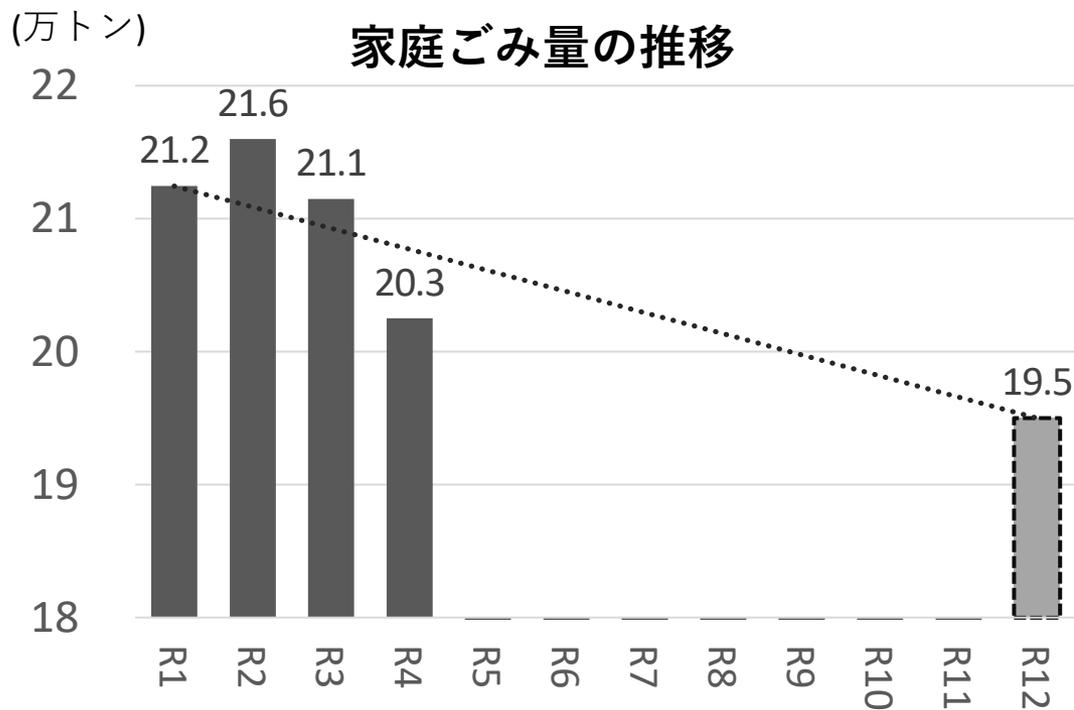
市受入量の推移



- R 2 年度にコロナ禍の影響を受け、大きく減少
- その後、R 3 年度、R 4 年度も減少（ピーク時から 2 2 年連続）
- R 1 2 年度の目標 3 7 万トンまで残り約 1 万トン
- ただし、コロナ禍からの社会経済活動の回復等に伴うリバウンド等に注意が必要

	R 1 年度 【基準】	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 1 2 年度 【目標】
市受入量	40.9万ト	38.5万ト	38.1万ト	38.0万ト	37.0万ト
対基準年比	—	▲5.8%	▲6.8%	▲7.2%	▲10%
対前年比	▲0.2%	▲5.8%	▲1.1%	▲0.4%	—
市民1人1日当たり	762g	721g	718g	718g	700g

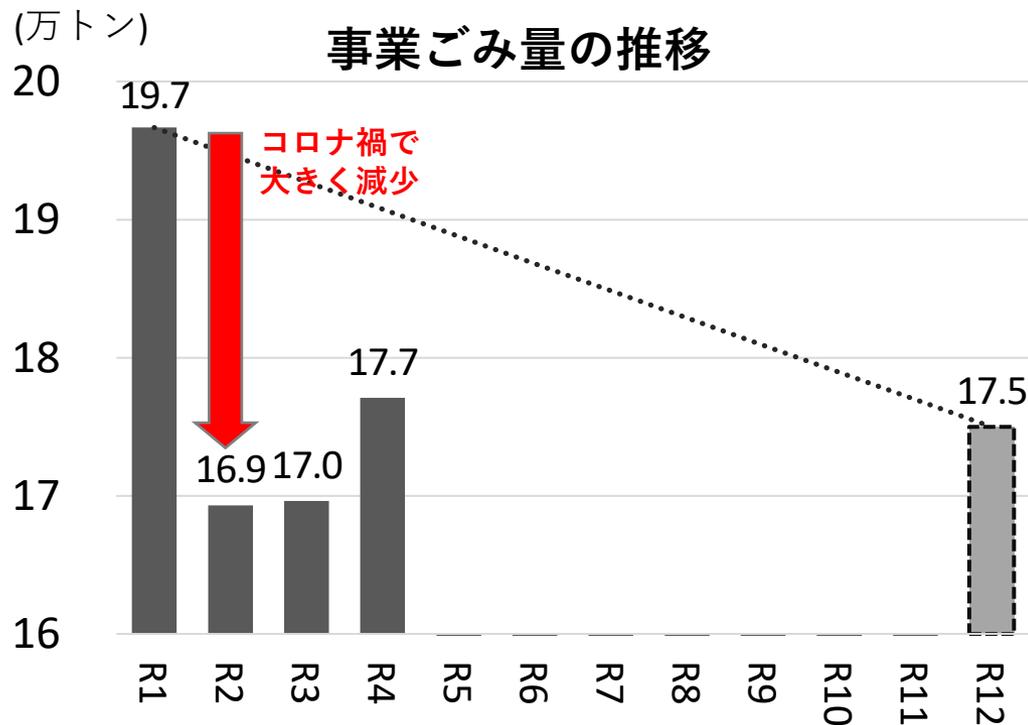
1-2 家庭ごみ量



- R 2 年度はコロナ禍での外出自粛、テイクアウト利用、宅飲み増加、テレワーク対応、片付けごみの発生等で増加
- R 3 年度、R 4 年度は家庭へのコロナ禍影響が落ち着き、減少
- R 4 年度は物価高等の影響もあり大きく減少
- R 1 2 年度の目標 1 9.5 万トンまで残り 0.8 万トン

	R 1 年度 【基準】	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 1 2 年度 【目標】
家庭ごみ量	21.2万ト	21.6万ト	21.1万ト	20.3万ト	19.5万ト
対基準年比	—	+1.7%	▲0.5%	▲4.7%	▲10%
対前年比	▲0.6%	+1.7%	▲2.1%	▲4.2%	—
市民1人1日当たり	396g	404g	399g	383g	370g

1-3 事業ごみ量

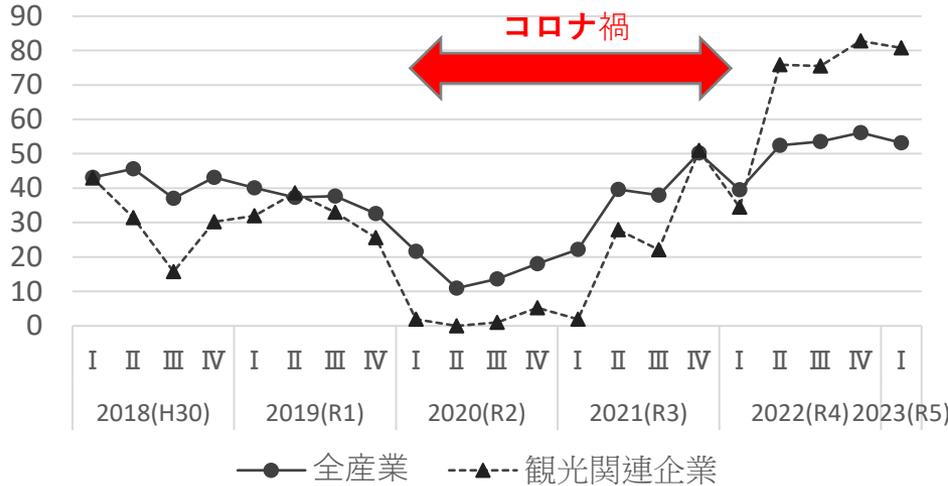


- R 2 年度にコロナ禍の影響を受け、大きく減少
- R 3 年度は引き続きコロナ禍の影響を受け、横ばい
- R 4 年度はコロナ禍からの社会経済活動の回復等に伴って増加
- R 1 2 年度の目標 1 7.5 万トンまで残り 0.2 万トンであるが、社会経済活動の回復が継続するため、注意が必要

	R 1 年度 【基準】	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 1 2 年度 【目標】
事業ごみ量	19.7万ト	16.9万ト	17.0万ト	17.7万ト	17.5万ト
対基準年度比	—	▲13.9%	▲13.7%	▲9.9%	▲10%
対前年度比	+0.3%	▲13.9%	+0.2%	+4.4%	—
市民1人1日当たり	366g	317g	320g	335g	330g

1-4 (参考) 経済動向

市内中小企業の企業景気DI

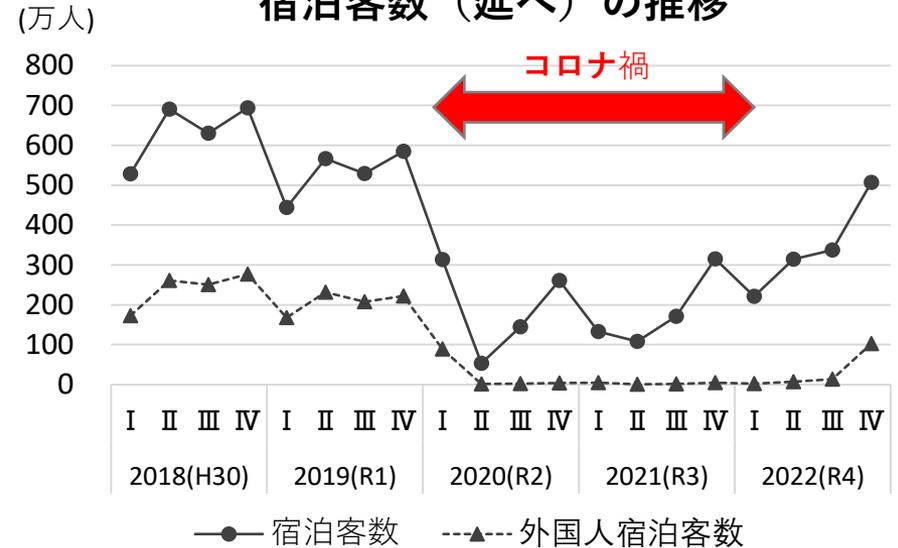


出典：京都市中小企業経営動向実態調査（京都市産業観光局）

DI：増加、上昇などと回答した企業の企業割合から、減少、低下などと回答した企業割合を差し引いた数値。50を基準として、それより上である場合は、上向き傾向を表す回答が多いことを示し、下である場合は、下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

- 中小企業の景気DIはR 4 年春(II)以降、基準値の50を超え、景気回復傾向
- 宿泊者数はR 4 年秋(IV)以降、大幅に増加
- 事業ごみ量は、企業景気や観光客数と相関があることが分かる。

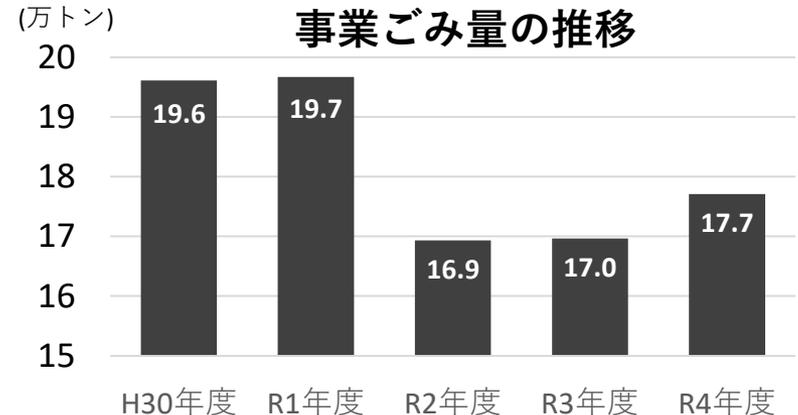
宿泊客数（延べ）の推移



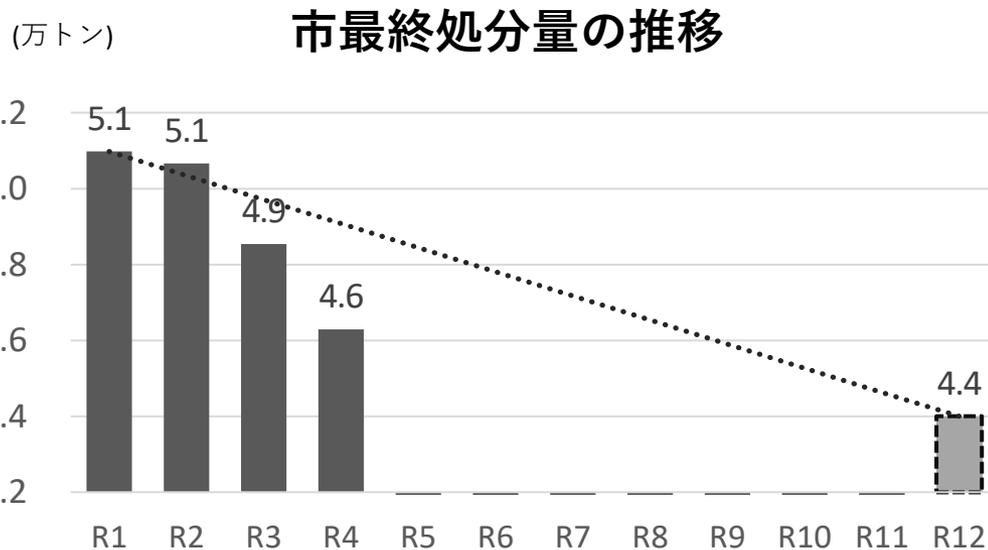
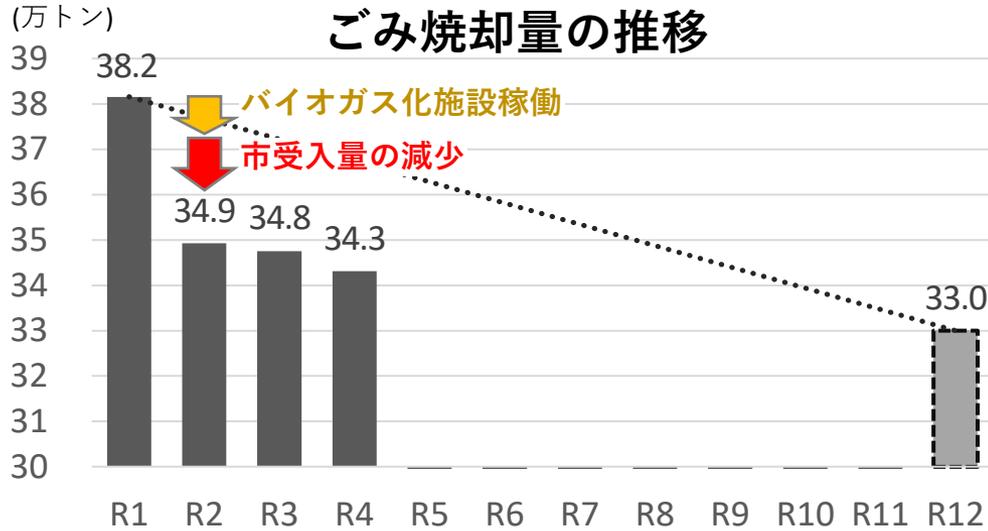
出典：観光客の動向等に係る調査（京都市産業観光局）

(注) 調査手法の変更により、令和元年以降の数値は過去の数値と時系列による比較はできない。

事業ごみ量の推移



2 ごみ処理量



- R 2 年度に市受入量の減少や南部CC バイオガス化施設稼働 (R1.10~) の効果によって、大きく減少
- R 4 年度は市受入量の減少やバイオガス化施設投入量の増加によりさらに減少
- R 1 2 年度目標 3 3 万トンまでは残り 1.3 万トン
- R 5 年度は製品プラ回収開始の効果が一見見込まれる。
- R 2 年度はごみ焼却量が減少したが、南部CC第一工場閉鎖及び東北部CC大規模改修に伴って、灰ピット内の灰を全排出したため横ばい
- R 3 年 9 月からは東北部CCでの焼却灰からの鉄分回収を開始し減少
- R 1 2 年度目標 4.4 万トンまでは残り 0.2 万トン

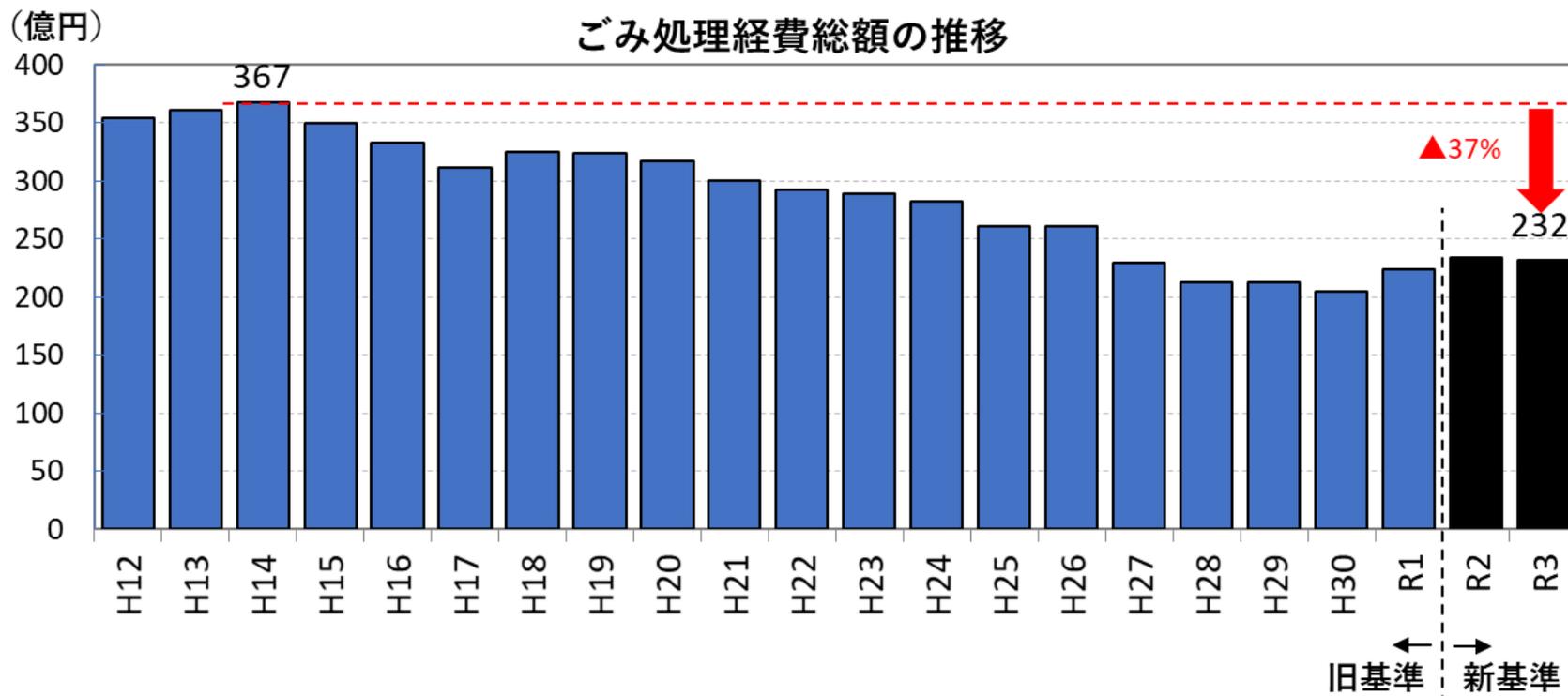
3-1 ごみ処理経費総額(令和3年度)

<ごみ処理経費とは>

行政の単年度ベースの予算・決算では、施設建設費が施工した年度に集中するため年度間で比較できないことなどから、経費の経年比較ができるよう、ごみ処理経費を算定している。

- 最新値のR3年度は**232億円**
- ピーク時（H14年度）の**367億円**から**▲135億円（▲37%）**

※国に従いR2年度から算定基準を変更している。



3-2 手数料算定基礎額(令和3年度)

< 手数料算定基礎額とは >

事業ごみの処理に係る収支が均衡する単価水準であり、事業ごみの搬入手数料の設定根拠となるもの。

経費から売電や国補助金等の収入分を差し引いたものをごみ量で除して算出。

- 最新値の R 3 年度値は**2,076円/100kg**
- R 3 ~ 4 年度の手数料見直し時に見通した **2,000円/100kg**に近い値となっている。
- なお、R 3 年度は事業ごみ量がコロナ禍によって依然として少ない年であることに留意が必要

(円/100kg)

手数料算定基礎額の推移

